

VISION 2020

“選民”としての自負心を持ち、天一国の理想実現を



「世界平和統一家庭連合創立56周年記念式典」開催

9月24日、「世界平和統一家庭連合創立56周年記念式典」が、東京・渋谷の松濤本部礼拝堂で開催され、先輩家庭や牧会者、本部関係者など会場いっぱいに参加者が集まりました。今年8月末に「世界基督教統一神霊協会」から「世界平和統一家庭連合（家庭連合）」に名称変更後、最初の創立記念式典となりました。

第一部のオープニングでは、光の子園太陽組の園児たちが元気に太鼓やダンス、合唱を披露。続いて、韓国人婦人らによる「セチョンジ（新天地）合唱団」の美しい歌声が、会場を魅了しました。

表彰式では、^{ソンヨンジョン}宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長と徳野英治・家庭連合会長が、長期牧会者（公職40年、30年、21年、12年）、長期婦人代表、伝道優秀者、功労者、拉致監禁生還者ら137人の対象者のうち、出席した92人に功労牌や表彰状、記念品を授与し、グループごとに記念撮影が行われました。

第二部では、はじめに天一国の歌を斉唱し、田中富広・家庭連合副会長が代表報告祈禱。その後、映像を通じて真のお父様の聖和3周年記念行事における真のお母様の祈禱とメッセージが紹介されました。参加者は、お母様が「天地人真の父母様 生涯業績展示会」をご覧になる様子などを熱心に見入っていました。

平和大使の来賓紹介に続いて、徳野会長が主催者挨拶で、「真のお母様に『日本のことは心配しないでください』という決意をささげましょう」と語った上で、①家庭連合時代にふさわしい理想家庭づくりを目指そう②神氏族メシヤの使命を完遂しよう③2020年までに国家的世界的基盤を造ろう——という3点を訴えました。

祝歌に続いて、満面の笑顔で壇上に立った宋総会長は、「今日は、家庭連合時代を出発する歴史的な一日」とした上で、教会草創期から苦勞してきた久保木哲子夫人をはじめとする元老食口を慰勞。

また、宋総会長は「台風が海水を浄化してくれるように、祝福の台風を巻き起こし、日本中をきれいにしましょう。躍動する日本を築き、イエス様が『まず神の国と神の義とを求めなさい』と語られたように、天一国の理想実現を果たしていくのです。そのために食口のみなさんはアメリカの清教徒のように、ユダヤ民族のように天から選ばれた民としての自負心を持ってください」と強調。その上で、「①感謝の心②許す心③愛し合う心④一つになる心——を抱きながら、神霊と真理が溢れる教会をつくり、教会を離れていった貴い食口たちの傷までも癒してあげましょう」と愛と希望のメッセージを述べました。

最後は責任者全員が登場し、8月30日に韓国で行われた真のお父様の聖和3周年記念式でも歌った「み旨の応援歌」を会場全体で声高らかに歌った後、李成萬本部長のリードで億萬歳四唱を行い、閉会しました。

UPeace が洪水被災地で復興支援

茨城県常総市でボランティア活動



①被災した家屋で作業をする UPeace メンバー ②床板をはがす UPeace の男性メンバー ③公園を埋め尽くす大量のゴミ

9月に日本を襲った台風18号による豪雨のため、堤防が決壊し洪水災害が発生した茨城県常総市近隣の市町村では、災害ボランティアセンターが設置されてボランティア活動の受け入れが行われています。

これを受けて、家庭連合平和ボランティア隊（UPeace）では、青年を中心とした災害ボランティアチーム（ユーブイス）を派遣。多い日は1日当たり50人ほどのメンバーが現地入りし、被災者の為に汗を流しています。

茨城県常総市の災害ボランティアセンターが1500人のボランティアを募集したのに対し、実際は3000人以上が集う日も。中には、作業開始の2時間以上前にボランティアセンターに集合して準備するなど、日本国民の良心性の高さが垣間見られます。

ボランティアの主な活動内容は、家財道具の運び出しや流れ着いた泥の撤去、被災した箇所の洗浄作業や消毒などです。活動場所は、被災者の自宅に始まり、店舗や学校、工場などで、依頼者のニーズに合わせて変わります。

あるお宅は床下浸水だったため、家の周囲を片付ければ普通に暮らせる環境でした。あるお宅では、床上浸水1メートルだったため、1階の家財道具は全てダメになり、電気・ガス・水道などのインフラ環境も壊れてしまいました。しかし、2階部分は大丈夫だったため、家主は家をリフォームするか取り壊すか、悩んでいる最中でした。またある被災者は、家が丸ごと流されて文字通り全てを失い、未来に希望を持てずにいました。

このように、被災者の置かれた環境は千差万別で、被災者

に対する支援の仕方も人それぞれ違ってきます。しかし行政では、市民に対して一律の平等な支援しかできません。そのためボランティアは、行政の手の届かない部分、被災者一人ひとりに合った支援をしていくことが大切です。行政とボランティアが協力して被災した方たちを支援することが不可欠なのです。

ボランティアで来たメンバーたちが頑張る姿に感動し、作業後には思わず涙を流される依頼者もおられます。話を聞くと、「こういう状況になるのは人生初です。私自身も、自分の家をどこからどうしたらいいのか分からない状況なのです」と言われていました。

被災地の1日も早い復興を願いながら、UPeaceでは被災地復興支援を継続していきたいと考えています。

（UPeace キャプテン・加藤 善斐徒）

【UPeace 参加者の声】

- 被災した家屋でがれきの運び出しをしました。その中には、泥だらけで腐った米が粉れていました。その米を運び出すとき、今までの人生で一番の強烈な臭いが襲ってきたので、私は一瞬ためらいました。「根性や気合いで乗り切れる環境じゃない。どうすればいいのか」と思いながら、他のボランティアが米をシャベルで袋に詰めている光景を見ると、真のお父様が歩まれた興南監獄が頭の中に浮かびました。「これを乗り越えることができるのは、根性でも気合いでもなく、愛しかない」。そう思ったからは、体が動き始めました。

少子高齢化、打開のカギは家庭再建

沖縄、岐阜、富山で「真の家庭国民運動」推進会議が結成



「真の家庭国民運動」を推進する都道府県会議の結成大会が各地で相次いで開催されています。9月13日には「沖縄県会議」と「岐阜県会議」、同20日には「富山県会議」が発足。昨年4月1日に「全国会議」が結成されて以降、地方組織の結成は富山で54番目となりました。

9月13日、那覇市内の会場で開催された「沖縄県会議結成大会」には、平和大使など360人が参加。沖縄県会議共同議長の西田健次郎・沖縄県平和大使協議会議長の主催者挨拶に続き、徳野英治・真の家庭国民運動推進全国会議会長は特別講演の中で、年間3万件にもものぼる自殺や家庭崩壊の現状を取り上げ、中でも若者の自殺増加が深刻であると指摘。生きる目的が分からない若者の増加や、家庭の絆が失われつつある現状を打開するためには人格教育が必要であり、文鮮明師ご夫妻のみに基づいた結婚・家庭の意義と価値の教育が不可欠であると強調しました。

同日、岐阜県内で行われた「岐阜県会議結成大会」には、有識者など378人が集い、松下達也・岐阜県会議議長の主催者挨拶に続き、全国会議の梶栗正義事務総長が基調講演を行いました。

その中で、梶栗事務総長は日本が直面する「人口減少・超高齢化」問題の打開策として、①結婚・子育て・家庭の価値に関する若者の意識改革・教育の推進、②結婚・出産・子育て支援などの「家族政策」の充実——など4つの提言を行い、「真の家庭国民運動」の重要性を訴えました。

講演後、岐阜県会議共同議長である地元議員の挨拶があり、国民運動推進に拍車がかかる大会となりました。

その1週間後の9月20日には、富山県内で「富山県会議」の結成大会が開催。同県会議理事の岩城宗寿・同県平和大使協議会副議長の主催者挨拶に続き、徳野英治会長が「家庭再建こそ真の救国運動」と題して講演しました。

徳野会長は、円満な家庭を成すためのポイントとして、夫婦は貞節を守り、愛する思いを具体的に表現すること、さらに共感することの大切さを力説しました。最後に新役員が就任の挨拶を行い、万歳三唱で終了しました。

①沖縄県会議結成大会(9月13日) ②岐阜県会議結成大会(9月13日) ③富山県会議結成大会(9月20日) ④徳野英治会長 ⑤梶栗正義事務総長

【参加者の感想】

- 日本の少子高齢化は深刻な問題であり、若者の晩婚化や非婚化、待機児童、高齢者福祉の問題など、政治行政で対応すべき課題が多くあります。そんな中で、結婚や家庭の価値を掲げて国民運動として行うことは有意義であり、ありがたいことです。（沖縄、国会議員）
- どんな偉業を成した人でも、必ず家族の支えがありました。あまり評価されることはないけれども、とても重要なことだと痛感しました。（岐阜、地方議員）

家庭重視の「日本モデル」による国家再生を

宮城で「日本国際指導者会議」



①少子化問題をテーマに行われたILC (9月12日、多賀城市)
②挨拶をする徳野英治 UPF 日本会長
③講演する梶栗正義 UPF 日本事務副総長

少子高齢化が急速に進む中、「家庭の危機と再生へのビジョン—少子化非常事態と日本の選択—」をテーマに、家庭強化のための方策を探る「日本国際指導者会議 (ILC-Japan) 2015 in 仙台」が9月12日、宮城県で開催されました。同会議は、国連 NGO の天宙平和連合 (UPF) と平和大使協議会が主催し、菊谷清一 UPF 日本事務総長が司会を務めました。

講演を行った大学教授は、6月末に米連邦最高裁がすべての州で同性婚が認められるという判決を下したことについて、「同性婚合法化の論理は、重婚・一夫多妻支持の論理につながる。米国の動きは数年後には必ず日本に影響を及ぼすはずだ」と警鐘を鳴らしました。

また、今年3月末に東京都渋谷区で制定された「同性パートナーシップ条例」も同じ流れにあるとし、「異性愛、同性愛、両性愛、無性愛をすべて同等な価値として並列に並べている。憲法では、男女の法律婚を特別に重視し保護している。次世代を生み出し育てる関係だからだ。渋谷区の条例は上位法である憲法に抵触する可能性があり、民法の法律婚尊重の原則に反する」と述べました。

さらに、条例案が急に発表されるなど「手法が非民主的」「思想・信条の自由を侵害し、区民や事業者に不利益をもたらす可能性がある」などの問題点を指摘。その上で、「(米保守派の重鎮)

パトリック・ブキャナン氏が、その著書『超大国の自殺』で述べているように、多くの人が結婚を望まなくなり、少子化を数倍加速させる」と警告し、「日本の憲法には家族尊重条項がない。家族基本法をまず制定すべきだ」と訴えました。

主催者を代表して挨拶を行った徳野英治 UPF 日本会長は「自殺者数は先進国中でトップクラスだ。若者の心が病んでいる」と、家庭再建と教育の改革の緊急性を強調。「日本は、これからは西洋文明の良いものと悪いものを取捨選択しながら、日本文化の良いもの、とくに家族文化や家庭愛を大事にして再建する運動を通して、社会再建をはたし、世界への発信地となっていくべきだ」と語りました。

もう一人の講演者、真の家庭国民運動推進全国会議事務総長である梶栗正義 UPF 日本事務副総長は、スウェーデンやフランスで家庭政策の失敗から婚外子が50%以上になっていることを指摘。「日本にはまだ健全な家庭観が残っている。子供は家庭で育てるという基本政策への転換、三世代の絆強化と同居を促す税制や経済支援の政策を進めるべきだ」と強調し、「日本モデル」による国家再生のビジョンを提示しました。

パネルディスカッションでは、市議会議員や教員などがパネラーを務め、活発な討議が展開されました。

日韓友好親善の願いつなぐ 現代版「朝鮮通信使」

「Peace Road 2015 in Japan」報告会及び解散式を開催



①全体報告会及び解散式に集まった参加者 ②都内のホテルで行われた全体報告会及び解散式 ③報告を行う大塚克己・共同実行委員長 ④大塚共同実行委員長ご夫妻と「完走証明書」を受け取った縦走ライダーの代表

9月19日、東京都内のホテルで「Peace Road 2015 in Japan 全体報告会及び中央実行委員会解散式」が行われ、同中央実行委員会のメンバーや平和大使、在日コリアン代表ら約150人が参加しました。

今年6月22日に「日本出発式」が行われたピースロード2015は、7月20日、北海道の納沙布岬を皮切りに日本列島を自転車などで縦走り、8月20日に下関から韓国・釜山へと繋がりました。日韓友好親善の促進の願いも込めて行われたピースロードは多くのマスコミの注目を集め、13の地方主要日刊紙、4つの大手放送局などが報道しました。

「報告会及び解散式」は、はじめに林正寿・中央実行委員会副実行委員長 (早大名誉教授) が開会挨拶をし、「江戸時代を通じて日本と(李氏)朝鮮の関係は良好だったが、それを支えたのが朝鮮通信使だった。ピースロードは現代版の朝鮮通信使と言える」とピースロードの意義を説きました。

続いて水野達夫・同委員会副実行委員長 (元駐ネパール大使) が「自転車は排気ガスを出さないエコのイメージ、若々しいイメージがあり、人々が心一つにするにはとても良いツールだ」と称賛。来賓を代表して挨拶した宮塚利雄・元山梨学院大学教授は「来年も是非続けてほしい」と参加者を激励しました。

引き続き、徳野英治・同委員会常任顧問 (家庭連合会長) のメッセージを同委員会の茂木福美さんが代読。その中で徳野会長は「2013年に日本から出発したピースバイク・プロジェク

トが、今年からピースロードと名を改め世界的なイベントとして拡大発展した。これは日本から世界へと拡大した典型的な成功プロジェクトの実例と言える」と述べ、プロジェクトを高く評価しました。

その後、大塚克己・同委員会共同実行委員長 (平和統一聯合中央本部長) が日本全体の報告。今年のピースロードの特徴として、「距離が長かったこと、参加者が増えたこと、多くの企業体にスポンサーになって頂いたこと、また多くの方がサポーターとして寄付をしてくださったこと」と説明し、映像を通して全国で行われたピースロードの様子を伝えました。また、ピースロード世界組織委員会事務総長の宋ガンソク UPF 韓国事務総長が世界におけるピースロードの模様を報告しました。

続いて大塚実行委員長が、縦走ライダーの代表者に完走証明書を授与。東北実行委員会には、ピースロードで使われた自転車が贈呈されることが発表されました。また特別感謝状が徳野会長に授与され、家庭連合を代表して出席した李成萬・企画本部長に手渡されました。

その後、菊谷清一・同実行委員 (UPF 日本事務総長) が委員会解散と来年に向けた準備委員会の発足を告げた後、日本に嫁いできた韓国人夫人らによって構成された「セジョンチ合唱団」が、「イムジン河」と「統一の歌」を合唱し会場を盛り上げました。

最後に、宋幸哲 FPU 事務総長のリードで万歳三唱を行い、閉会となりました。

統一運動の将来を担う 二世圏指導者を養成

「2015年度 天一国奨学金奨学証書授与式・活動報告会」開催



① 2015年度の「天一国奨学金奨学証書授与式・活動報告会」(9月19日) ②メッセージを語る宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長 ③祝辞を述べる李成萬・企画本部長 ④挨拶をする梶栗正義・企画本部副局長

2015年度の「天一国奨学金・奨学証書授与式」および「活動報告会」が9月19日、東京・渋谷の松濤本部で行われ、今回奨学金を受ける奨学生をはじめ、先輩奨学生や関係者が集まりました。

この奨学金は2010年4月、真のお母様より「日本の二世教育のため」として寄贈された奨学金を基にして、翌11年から本格的にスタート。将来の統一運動を担う優れた人材の育成と二世圏指導者層の養成を最大の目的としています。

勅使河原秀行・人事部長の司会で始まった集会は、佐藤進副次長の趣旨説明の後、代表して二人が活動報告を行いました。

鮮文大学純潔学部を卒業した先輩奨学生は「(韓半島が)南北に分断された神様の悲しみを実感して人生が大転換しました。多くの人々に愛と希望を伝えられる絶対性の夫婦、モデル家庭を目指します」と決意を表明。もう一人の奨学生は「再生医療を研究テーマにしています。社会の中で活躍する二世のネットワークをつくって英知を結集し、私たちの専門性を生かして社会問題を解決に導くことで、統一運動と国家に貢献していきたいです」と抱負を述べました。

次に、李成萬・企画本部長は祝辞で、「天一国の実体化には(分野ごとの)専門家が必要です。神様と真の父母様が感動する人

物になって下さい」と述べ、先駆者としての役割を強調しました。

また、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は、「ヨセフはエジプトを7年間の大飢饉から救い、偉大な指導者になりました。同じように、世界が苦痛と混乱の危機に瀕する中、天の伝統を相続して、創造本然の世界、天一国を実現するという天のみ意を実現する者になり、後輩に夢と希望を与える者となって下さい」と力強く激励しました。

その後、今回の奨学生に奨学証書と記念品が、先輩奨学生には記念品が授与され、1部が終了。

2部の懇親会では、二世圏のパイオニアである梶栗正義・企画本部副局長の代表報告祈禱に続き、参加者一人ひとりが自身の経歴を紹介しながら、専門分野を通じた社会貢献活動や天一国創建に向けたビジョンなどを提言。参加者は、研究機関やメディアなど、社会のさまざまな分野で活躍するメンバーの話に聞き入っていました。

最後に、宋龍天総会長による総括と祝詞の後、参加者どうしが交流する時間がもたれるなど、二世・青年圏の活躍と新しい時代の到来を印象づける機会となりました。

“最大の親孝行は、 真のお母様を支えること”

「国家メシヤ・先輩家庭特別集会」開催



①東京で行われた「国家メシヤ・先輩家庭 東日本特別集会」(9月21日) ②宋龍天総会長のメッセージに耳を傾ける参加者

「国家メシヤ・先輩家庭特別集会」が9月21日、22日にそれぞれ東京と大阪で開催され、国家メシヤをはじめ多くの先輩家庭が集まりました。

21日に東京・高田馬場の新宿教会で開かれた東日本集会には約200人の先輩家庭が参加。集会の様子は全国の教区にインターネット中継され、約600人が参加しました。

午前10時に始まった集会は、聖和3周年記念行事のダイジェスト映像の上映の後、李成萬・企画本部長が「聖和3周年記念行事の勝利を通して、真のお母様を中心に全世界の統一家が一体化し、発展していることを世の中に示すことができた」と報告。

続いて、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が登壇し、メッセージを語りました。

その中で、宋総会長は「真のお母様が語られるように、清教徒の信仰ゆえにアメリカが祝福され、現在は偉大な国として世界をリードしています。私は、日本食口の絶対信仰によって、天は母の国・日本を祝福され、天一国時代において全世界を導

くようになると確信しています」と述べました。

また、宋総会長は日本教会が直面する諸問題を解決していくため、「5つの希望プロジェクト」を立ち上げ、着実に改革を推し進めていると強調。その上で、世界平和統一家庭連合への名称変更に触れ、「これは天が日本にくださった大きな祝福です。真の意味で私たちは新しい出発をしなければなりません。個人時代から家庭時代を迎え、荒野時代から定着時代、そして天一国時代へと本格的な出発するのです」と語りました。

最後に、宋総会長は真のお母様のみ言を引用しながら、「真のお母様の侍墓3年生活によって、日本教会は生まれ変わりました。統一教会から家庭連合に変わり、環境は準備されています。これから私たちに恐れるものはないということです。真の父母様の業績のみ言を堂々と世の中に証していきたいと思います」と呼び掛けました。

引き続き、「希望プロジェクト」の担当責任者から、伝道や神氏族メシヤ活動、二世圏育成などの取り組みが紹介され、午前の部は終了しました。

午後の部では、サンクチュアリ教会の活動について、阿部美樹・教会成長研究院院長と可知雅之・特別巡回師が、真の父母様のみ言に基づいて問題点を分かりやすく解説しました。

引き続き、飯野貞夫、柴野邦彦両特別巡回師がそれぞれコメントを述べた後、徳野英治・世界平和統一家庭連合会長が総括を行い、「真のお父様から受けた愛と恵みに対する恩返しは、真のお母様をお支えすることです。それが最大の親孝行なのです」と訴えました。

東日本集会は、宋総会長による祝詞の後、億万歳四唱を行い、幕を閉じました。

神霊と真理によって価値観を転換

第1地区「大讃美・原理大復興会」に1400人



①基調講演を行う田中富広副会長
②成和学生による躍動感あふれるダンス
③歌を披露する聖歌隊
④「約束の翼」を全体で讃美した



9月13日、札幌市内のホールで「第18回 秋の大讃美・原理大復興会」が行われ、新規の参加者300人を含む約1400人が集まりました。第1地区（北海道）の大讃美・原理大復興会は、伝道や来教者の教育と共に、善なる霊界協助の基台づくりを目指して2011年にスタートし、丸4年を迎えました。

真のお父様の聖と3周年を越え、真のお母様を中心に新たに出発する中で行われた今回の大讃美・原理大復興会は、「世界平和と孝の精神」をテーマに開催。全道から集まった15の聖歌隊が、聖歌や讃美歌、オリジナル曲などを披露し、神様と真の父母様、イエス様を称えました。

まず、オープニングは札幌南・白石成和学生会による躍動感あふれる創作演舞でスタート。その後は、青年学生や壮年婦人による讃美へと続きました。さらに、新結成された青年バンド「Blue Sheep」が、文孝進様が作られた「汽笛」のほか、合唱でアレンジした「最後の祈り」を演奏すると、会場はまるで孝進様が霊的に降りてこられたような感動的な雰囲気に包まれました。

続いて、田中富広・世界平和統一家庭連合副会長が、「世界平和と孝の精神」と題して基調講演しました。

その中で、田中副会長は、今の世界における日本の現状や日本が誇ることのできる良い部分を紹介しながら、孝の精神と家庭の大切さを強調。特に良心に従って生きる生き方が世界平和に大きく貢献すると訴え、多くの参加者が感銘を受けました。

最後は、第1地区・北海道のテーマソングであるオリジナ

ル曲「約束の翼」を会場全体で讃美し、参加者の心が一つとなり大きな恩恵を受けました。

この大讃美・原理大復興会は、神霊と真理による価値観の転換が目的の一つで、式次第の中には、敬拝や家庭盟誓、祈禱なども含まれ、内容的には礼拝と同じようなプログラムとなっています。それでも、初めての参加者もスムーズに雰囲気にとけ込むことができ、リピーターも多くいます。

第1地区では、今後も天の父母様と真の父母様を堂々と讃美しながら、原理の御言を多くの人に伝え、真の家庭運動と祝福を力強く推進していく方針です。

【参加者の感想】

- 文孝進様の歌は、魂の叫びのように聴こえました。心の底から魂を振り絞り、神の思いを歌っていて素晴らしいです。穏やかな受け入れ方をカトリックにはない感性を味わいました。また若者のパワーは凄く、お話しも良かったです。（新規・クリスチャン）
- 田中副会長のメッセージがとても面白かったです。一番印象に残ったのは、「未来を見て歩いていけば、永遠の青年である」という言葉です。私自身も常に良心に従いながら、日々歩いていきたいです。（21歳男性）
- 素晴らしい美声、合唱に感動しました。永久に忘れません。皆さんと交流が出来て、最高に良かったです。（新規・49歳男性）

全国の伝道の証し

神様と真の父母様を全身全霊で証しすれば霊界が協助する！

北愛知教区瀬戸家庭教会 75歳女性

街頭伝道の最中、一人の方が離れた所でじっと話を聞いておられたのですが、急に駆け寄ってこられ、「今は、こんなやり方で伝道する時代になったんだね、みんな頑張っているのですね。また、話を聞かせてください」という言葉を残し、その場は別れました。

数日後、その方が突然教会を訪ねてこられ、「摂理のDVDを見せてください」と言われました。その方は、10年前教会に来ていた方でした。10年間の心情を吐露しながら、「長い間ご無沙汰していて本当に申し訳ありません」と言われ、頑張っていくことを決意されました。

瀬戸家庭教会では今年1月から街頭伝道を行っています。私たち食口が喜んで伝道に出ることで、いろいろな出会いを毎回体験させてもらっています。

私の霊の親は基台長で、いつも「家庭連合は間違いない。原理で解決できないことは何一つない。これは確信の世界だ！」と自信と確信をもって引っ張ってくれるので、私はただ必死に付いてきました。

伝道場所の名鉄瀬戸線の「新瀬戸」駅前には、私にとっては地元なので知り合いも多く、街頭伝道の最初のときは「もし知っている人に会ったらどうしよう」と、恥ずかしい思いや世間体など、私の心は不安でいっぱいでした。

しかし「自信と確信を持ってご父母様を証ししよう！」と腹を決め、悔い改めて、私の名前と「家庭連合の文鮮明先生の原理構論『総序』のみ言を皆様にお伝えします！」と大声で言った途端、心の中にある不安、世間体、自信の無さ全てがなくなったのです。

その時、私はみ言を伝えることがこんなに嬉しく、楽しいことかと体験することができました。それからは街頭伝道に出るのが喜びになりました。

先日も、一人のブラジル人の女性に会い、声をかけました。

その方は来日して23年の間、仕事以外で日本人から声をかけられたことが初めてだと感動し、また「神様の事を教えてくれる方に初めて出会った」と喜んで教会に来られ

ました。日本語は日本に来てから勉強し、話すことはできるようになりましたが、まだ読み書きはできないので、自叙伝は日本語の読めるご主人と息子さんに読んでいただくことにし、ご家族の了承をいただいて「家庭のしあわせ講演会」に参加されました。

「あなたがブラジルから日本に来たのは偶然ではなく、神様には体がないのでこの方（私）を通して導かれたのです」と、カウンセラーがその女性に言った言葉がとても心に残りました。その女性は仏教徒ですが、3回の臨死体験をしていて、「私は神様、霊界を信じます。神様の勉強をします」と言われました。彼女がまるで私の娘のように慕わしく、二人で抱き合っ泣きました。

この女性は私の娘と同じ年代です。偶然ではない出会いとはこのことだと悟らせて頂きました。私に母としての愛が足りない分、情が深く為に生きることを喜びとしている霊の子を神様が授けて下さったのだと思うと、感謝で涙が止まりませんでした。

伝道は神様と真の父母様がして下さるので、私は神様と真の父母様を証しすることだけに全身全霊で打ち込めば、霊界が協助して下さるので今回のゲストを通して感じることができました。今は二人の霊の子がつながり、教育を受けています。

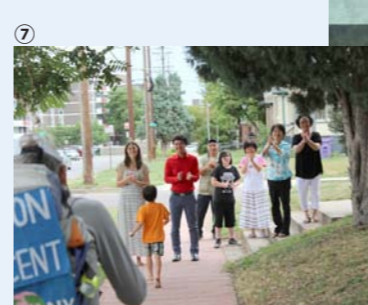
神様、真の父母様、先祖と霊界の協助の中で霊の子が導かれたと思います。

今後は、もっと自信と確信をもって伝道に邁進して、VISION 2020 勝利に向かい頑張っていきます。



真の父母様を証しながら北米大陸 4700 キロを踏破

1800 家庭・町田松夫さん「ハレルヤ大行進」勝利



真のお父様の聖和3周年に合わせ、長野家庭教会所属の町田松夫さん(65歳、1800家庭)が6月末から約3か月かけて、無実の罪でダンバリー刑務所(米コネチカット州)に収監されたお父様の名誉回復と世界平和を訴えるため、徒歩による2度目の北米大陸横断に挑戦し、無事成功を果たしました。

真のお母様は度々、「70億人類に真の父母が来られていることを堂々と証しなさい」と語られています。町田さんはこれまで、単独での行進を「ハレルヤ大行進」と名付け、「今、叫ばなければ石が叫ぶ!」という切実なる心情を携え、2度の日本縦断(1998、2000年)や3度の韓国縦断(2002、06、09年)などを敢行。真の父母様の愛と真実を日本や韓国、アメリカの国民に命がけて訴えてきました。

松田さんは今回、6月26日に米西海岸のサンフランシスコを出発。86日間かけて首都ワシントンDCに向けて行進し、

9月18日にゴールのワシントン記念塔に無事到着しました。

今回の横断中、猛暑をはじめ大自然からの試練に見舞われながらも、大きなトラブルはなく、4700キロに及ぶ行程を、1日平均55キロのペースで踏破。日の出前にスタートし、時には14時間以上、70キロを超えて歩く日もありました。

8月以降は、各地で地元メディアから取材を受け、町田さんの挑戦がテレビや新聞などで報道。また、町田さんは行く先々で、家庭連合のメンバーをはじめ、通りすがりの一般の人々や市長などから歓迎を受けました。

町田さんは86日間を振り返り、「『Rev. Moon is Innocent(文師は無実だ)』。この一言をアメリカの人々に訴えるために、メディアのインタビューにも応えてきました。そのことで、真のお母様をお慰めしたかった」と述べています。



①大行進に先立ち、空路でラスベガス入りし、ピースパレスで祈りを捧げた町田松夫さん(6月25日) ②サンフランシスコの高台にある聖地ツインピークスで、大行進スタートのセレモニーが行われた(6月27日) ③ユタ州西部を行進する町田さん(7月23日頃) ④コロラド州を州都デンバーに向けて進む(7月26日) ⑤行進は日の出前からスタート(7月28日早朝、コロラド州) ⑥ロッキー山脈へ続く道(7月29日頃) ⑦コロラド家庭教会(デンバー)の前で町田さんを迎える地元メンバー(8月2日) ⑧ミズーリ州の地元紙1面に町田さんの平和行進の記事が掲載(8月19日) ⑨インディアナ州議会議事堂(インディアナポリス)の前で(9月1日) ⑩インディアナポリスの地元テレビ局から取材を受ける町田さん(9月1日) ⑪バージニア州フェアファックス市の市長(右)を表敬訪問(9月17日) ⑫ワシントンDCに到着した町田さん(9月18日) ⑬大行進の勝利を祝うセレモニーに集まった地元メンバーなど(9月18日、ワシントン記念塔前) ⑭徳野英治会長の祝辞を携えて駆けつけた増田勝「ハレルヤ大行進支援会」会長とホワイトハウスをバックに記念撮影